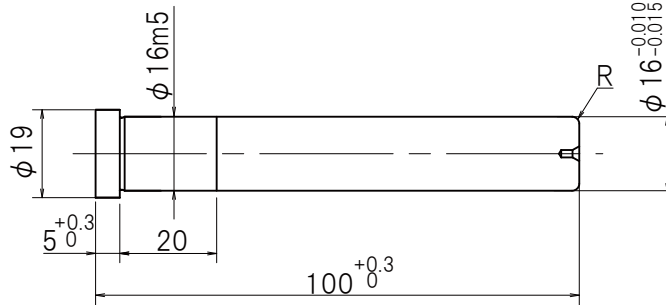


常時使用するサイズをまとめてコスト削減！

標準部品は製品によって数量割引サービスが適用されるものが多くあります。その数量割引をもっと上手に利用するとコストダウンが可能です。

数量割引が適用される製品はパンチ・ダイを中心にたくさんありますが、この冊子を読んだ多くの金型メーカー様ができるだろう製品は、ガイドポストやガイドピンです。ここではストリップガイドピン（カタログP.389～）の例を挙げて検証してみます。



SGPH16-100 定価500円

◆今回、金型製作分(2型分)だけを購入。ストリップガイドピンの購入数 4本×2型分 = 8本です。

定価500円 ⇒ 数量割引き適用外 ⇒ 単価500円 ▶ 8本ではスライド割引適用外です。

◆今回と来月の金型製作分(計4型分)を購入。ストリップガイドピンの購入数 4本×4型分 = 16本です。

定価500円 ⇒ 数量割引き適用 ⇒ 単価475円 ▶ 25円×16本=400円のコストダウン！
 (割引率 5%)

規格を統一、まとめて発注して数量割引きを利用する

ただやみくもに多く購入したのでは、当然無駄な在庫を増やすだけになってしまいます。しかし、金型の設計段階から「基本的にストリップガイドピンは、SGPH○-○○、またはSGPH△-△△を使用する」というように設計基準を決めていくと、同サイズの標準部品の購入を増やすことができ、数量割引きの適用数に達する部品が多くなります。

過去の購入データを見てみてください。実際に同じ規格の製品を頻繁に購入しているケースがあると思います。

この数量を予想して、在庫が定期的になくなる程度のロットで購入すると、数量割引を頻繁に使用できます。ストリップガイドピン1本あたりの割引金額はそれほど高くないと思いますが、他の部品にも応用して年間ベースで見ると、上手に利用すればそこその金額になります。現に、ノックピンやボルトは箱単位で購入している会社が多いと思います。ちょっとだけ感覚が違いますが、他の標準部品でも「箱買」に近い感覚で購入準備をすれば、少数で購入するよりも安く購入することが可能です。

ちなみに、部品を発注する時に、注文書の記載も型番に合わせて発注するケースが多いと思います。こういったケースでも、型番関係なしに発注品の数量を統合すると、まとまった数量になることが多くなり、数量割引を適用できる事も多くなります。もちろん、部品管理の面ではデメリットとなってしまいますが、部品購入費を下げることは可能となります。

一般的には、金型の製作時に合わせて、必要分を購入することが本来の正しい方法だと思います。しかし、少しでも部品購入費を下げたい！というお客さまのために、「ちょっとしたコツ」のご紹介でした。